

6年度は新たに13人加入

加入推進の取り組み強化を

令和6年度の府内農業者年金新規加入者数は13人となり、前年度より5人増加となった。内訳は泉南市が3人、和泉市、貝塚市、富田林市が各2人、柏原市、東大阪市、枚方市、堺市が各1人。このうち20～39歳の加入者が2人、女性は8人で、約6割となった。

農業者年金は農業者の老後の

安定・福祉の向上を図るものである。支払った保険料の全額が社会保険料控除の対象となるなど節税効果もあり、都市部でも活用できる担い手支援策であるため、加入資格がありながら制度を知らなかったのが加入していないというケースがないよう、周知活動に努めることが重要である。

特に次世代農業の担い手となる若い後継者やその配偶者などは、一定の要件を満たすことで国庫補助を受けられるため、こうしたメリットを十分に周知することも必要である。

また、農業の重要な担い手でありながら加入率の低い女性農業者の加入を促すことも課題である。女性の65歳時点の平均余命は男性より約5年長いため、老後の安定を図る備えの一つとして終身年金である農業者年金を提示することは加入を促すメ

「せんなんクラフトビール」 農委会長がプロジェクト牽引 ふるさと納税返礼品めざす

「目標は、ふるさと納税の返礼品に採用してもらうこと。地元の家も元気になる」と話すのは、泉南市農業委員会の東和宏会長。遊休農地を活用した地域特産品づくりに夢が膨らむ。

クラフトビールの製造をはじめた知人からの相談をきっかけに、約2年前に「せんなんクラフトビール（仮称）」のプロジェ

クトをはじめた。東会長の働きかけで遊休農地などの貸借を行い、毎年50リ

度の農地で大麦を生産。令和5年7月にはクラフトビールの試作品が完成した。まだ途上段階だが、「少しずつ生産量も拡大し、地域農業の活性化につなげたい」と東会長は力を込める。

(北川)



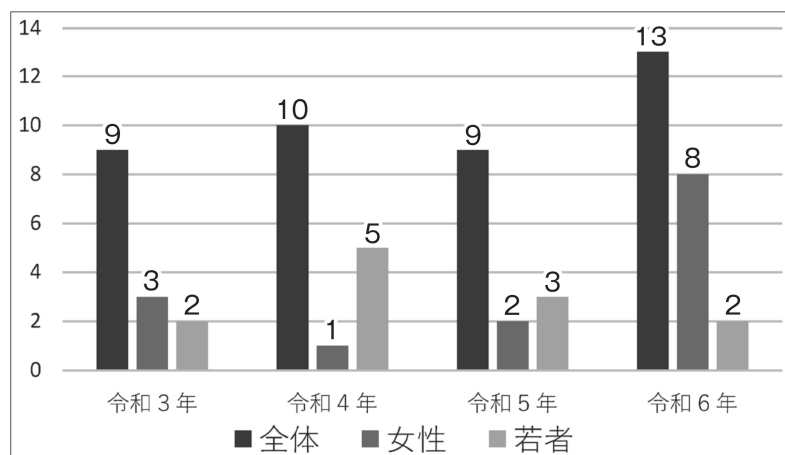
「せんなんクラフトビール」をPRする東会長

リットの1つとして説明できる。

しかし、加入者のアンケートでは制度を「ほとんど知らなかった」「まったく知らなかった」が半数を超えている。

加入推進活動はすぐに結果が出るものではないが、加入期間が長いほど受給時のメリットが大きくなりやすいため、市町村農業委員会委員、事務局担当者、重点農業委員会加入推進部長には継続した周知・加入推進活動をお願いしたい。

(林佑)



府内農業者年金新規加入者数推移(属性別)

iDeCoとの違いを徹底解説 第2回年金オンラインセミナー

独立行政法人農業者年金基金は5月29日、第2回農業者年金オンラインセミナーを開催する。



予約フォーム用
QRコード

(林佑)

マに講演を行う。業務受託機関農業者年金担当者、農業内外団体、老後資金の安定確保に興味がある農業者などが対象となる。参加費無料、事前登録制で、左図のQRコードより申し込みが可能。予約は5月28日まで。